

## 結局戻ってきた地点は

事務局としてではなく、稚拙な一人の人間として 黒澤友彦

掃除をする心は雫さん（こすげ冒険学校村長の雫さんだよ）から教わった。20年以上も前になってしまった10代、東京学芸大学の1年生だった頃。通学していた実家を出て住み始めたのは学芸大学の側ではなく、学芸大学の中、サークル棟の冒険探検部の部室だった。5畳ほどの部室だった気がする。ただでさえ狭いのに、そこに人が住んでいればもっと狭い。冒険探検部という仲間であったとしても共有スペースに住むことを選んでしまうのは迷惑だなと今は思う。あの頃は分からなかった。自分のことしか考えていなかったんだな。

週6の徹夜バイト。拝島橋のクロネコヤマトの集配センターで働いた。名目は冬山装備（一式）を購入するため、実際に購入した（その装備をもって、年明けに佐伯さんに北八ヶ岳に連れて行ってもらう）。学費を出すためでもなく、生活費を出すためでもなかった。真の目的はそういった生活で（周囲に）認められたかったんだな。「俺は面白いことをしている」「俺は変わっている」・・・良い経験にはなったが、当時を思い出すと恥ずかしいものがある。

バイト明けの早朝、住まいの学芸大学に寒さに震えながら戻ってくる。コタツに入って寝ていると、同じく深夜のバイトから雫さんも戻ってくる。そして起こされる。よく分かんが部室の掃除だ。部室が終わると、同じフロアで共有している水場などのスペースの掃除だ・・・嫌々、不満、面倒、なぜ俺が・・・様々なネガティブな気持ちに包まれたが、未熟だった当時の俺に必要なことを雫さんは仕込んでくれたのだと、ある程度の美化も交えながら今は思うし、感謝の心もある。

よって俺は公共のスペースを汚さないし、掃除もできる。率先して落ちている空き缶、ペットボトル、ティッシュ（コロナウィルスの影響下にある今は危ないかも）、タバコの吸い殻を拾える人間に育った。同時に、無理な時は無理だと潔く諦め自分を責めないバランス感覚も身についたと自負している・・・なのだが・・・

この小菅村に本会が拠点構えて15年が過ぎた。今は、キャンプ場が拠点であり、お借りしているから草刈りも便所（昨年から水洗）掃除も、ゴミの片付けもすべてやっている。だがそれ以前に借りていた古民家2軒では、使用方法が悪いということで大家さんから追い出されたというのが事実だったりする。

で、言い訳をするならば、「若さ」ということで、許してもらいたい。「若さ」ゆえ・・・眠い、酒を飲みたい、遊びに行きたい、人と集まりたい・・・ということで、掃除や片付けの優先順位は低い。今ならば、「脳汁」の出ない今ならば、掃除や片付けの優先順位はものすごく高い。当たり前のことだと実感している。現に、明日の仕事の段取り、そして服の用意まで前の晩に準備しちゃったりする。小学校低学年で習ったことだ。

---

掃除の技術はログビルダーから教わった。若狭さんを中心とするログビルダーチーム、そのメンバーは学校の用務の仕事をしており、その道のプロなのだ（ログビルドは趣味の方）。キャンプ場でのログハウス2棟＋トイレ棟、そして我が家の建築で、いろいろいろいろ教わった。掃除だけでなく手入れやメンテナンスまで。

結局のところ、掃除や片付けは基本なんだと思う。小中学校に通っているみんな！！遊びも勉強も部活も恋もゲームも全部大事なんだけど、将来大切な基本的な事柄として、掃除はできたほうがいい。掃除を嫌がらずに率先してできる人間である方がいいと思うぞ。掃除をマジメにやることは決して恥ずかしいことではない。茶化す奴はタコだ。タコに失礼だな。茶化す奴の方が間違っているというか・・・「幼い」でいいや。

小学生のころ毎日机に椅子を逆さまに載せて、教室の後ろに下げて、ホウキで掃いて水拭きして、今度は机を前に出して・・・というのが結構鮮明に思い出しちゃったりしている。

近々、神奈川県藤野町（現相模原市緑区）から小菅に本の移動を行う。本をトラックに積んだら、本のあった場所を当然掃除する。

昨年末は学芸大学に通って、冒険探検部の部室を空けるため、荷物の移動と処分、最後に拭き掃除までした。

先週末は、GWも夏休みも冒険学校をしないけど、キャンプ場の草刈りをした。

倉庫を植物と人々の博物館の図書室として借りているんで、毎年お盆とお彼岸には人のお墓の草むしりと掃除をする。家賃の代わりに労働で支払っている。

掃除が関係性を繋ぐ重要な仕事だったりして、年とともに丁寧に前倒しでできるようになったが、掃除をする心と技術を教えてくれた人たちに感謝している。40代になって巡り巡って戻ってきた地点は、小学生時代に習った社会で生きていく上での当たり前のことだったりもする。

でもね、「脳汁」が出ない近況、田舎暮らしで切羽詰まっていない近況なので、「規則正しく」する余裕があるからしているんだよね。「規則正しく」しておくことで、常に時間の余裕があり、その目的は「育児」。来月からは妻が勤めに復帰するので、保育所にも預けず、親戚も居ない中で日中は基本的に一人で育児をするから、「脳汁」とか「楽しみ」と距離を置いている。敢えての思考停止だ。両立できるほど鍛えられてはいない。

「規則正しく」明日の準備をすることも大事。小さいうちはそうかもしれないが・・・でもね、俺として褒めたいことは、若者は、眠らずに何かに没頭するぐらい熱くあるべきだ・・・と思ってもいる。

「もっと熱く生きるべきだ」

---

## 小菅村の近況

コロナウィルスの影響により、小菅の湯、道の駅など各施設が休業となっていた。6月1日より、小菅の湯も営業を開始した。

そんな中で、5/31に村長選挙と、村議会議員の補欠選挙が行われた。ダブル選挙は小菅村で初になる。前回の選挙は、2012年の村長選挙で、投票率は96.48%だった。



NHKの甲府放送より。同じ地区の方も村会議員に立候補したので居ない際に記念撮影。村会議員は3人のところに2人が立候補。

5月26日に公示日。そこから5日間の選挙戦。人口718人の小菅村ではみんなそれぞれの顔を知っているから、選挙ポスターは掲示されない。だが、選挙カーは小菅村内を走った。

誰に投票するかを真剣に考えつつも、一方を応援するということをしなかったため、選挙事務所、出陣式などにはすべて顔を出さず（すべて顔を出すか、すべて顔を出さないかのどちらかとした）。

両陣営に普段からお世話になっている人が別れており、声が掛かるのでどうしても息苦しい感じで、終わってホッとしているのが本音になる。


そして選挙の結果は・・・


## 小菅村長選

開票率 100%

20時42分 発表

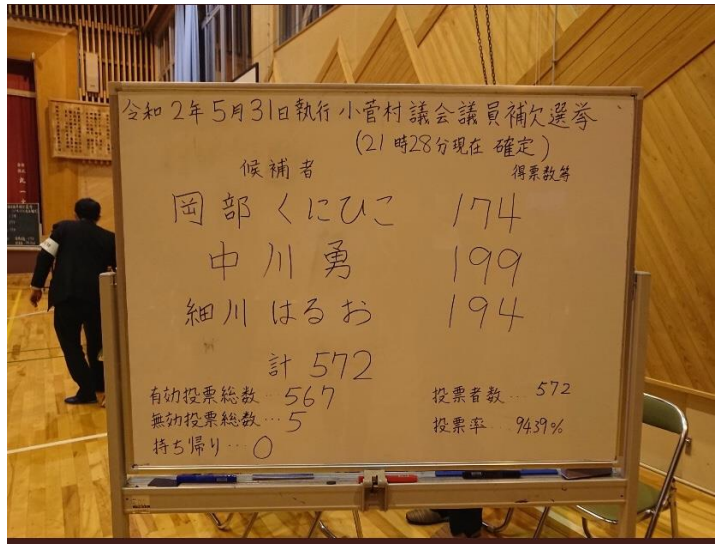
5月31日投開票  
定数1

**当**  **松木 直美**  
62=無現 **285票**  
[略歴](#)

 **加藤 和秀幸**  
70=無新 **283票**  
[略歴](#)

投票率：94.39%  
投票総数：572  
無効：4

**当** は当選、**確** は当確。開票状況は、1分間隔で自動更新されます。



(写真は開票に立ち会った村人のツイッターより)

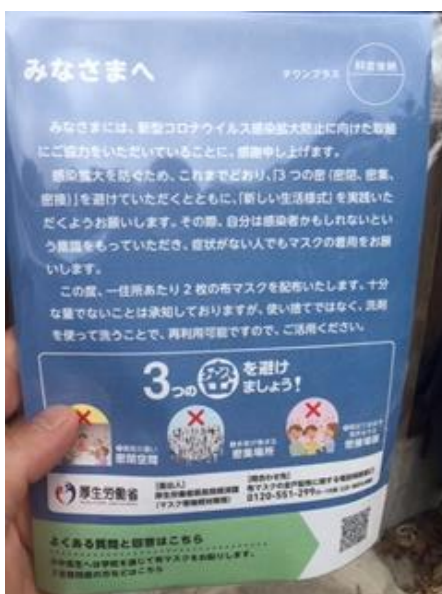
村長選挙は、たったの2票差だった。一人が逆に入れたら、同点票となりくじ引きで決着がつくようだ。投票率は前回より2.09%下がったようだ。

村議会選挙も、写真のとおり拮抗した選挙となった。

都内で教員をしている友人に話したところ、「中学校の生徒会選挙くらいの規模っすね」とのこと。

ということで、「1票の重み」は身をもって感じる事ができた。

選挙翌日の6/1。昨日までの熱気は一気に静まり、いつもの小菅村に戻った。そんな中・・・



アベノマスクが届いた。